

令和6年度ブラッシュアップ事業 授業改善研修会(小学校【国語】)

授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は、11月26日に奥州市立岩谷堂小学校で行われた小学校 国語の研修会について紹介します。

【研究テーマ】児童が自らの学びを判断し、選択しながら問題解決を図る国語科の授業改善

【授業の視点】

- (1) 児童の主体性を喚起する導入の工夫
- (2) 単元で育成する資質・能力を具体的に示し、それを児童と共有する指導の工夫
- (3) 自らの学びを選択・判断する課題解決的な単元構成

ブラッシュアップメンバー
授業者 奥州市立岩谷堂小学校
井上 淳子 教諭
支援員 奥州市立胆沢第一小学校
佐々木 縁 教諭
支援員 奥州市立姉体小学校
中村 美紀 教諭

授業の様子から

- ① 単元の目標である「思判表A(1)オ」の資質・能力を、「おみせやさんごっこをするために楽しくやり取りをする力を付ける」という姿で1年生の児童と共有し、そのためにどんなやり取りができればよいかを考える授業であった。
- ② 試しのおみせやさんごっこを行い、不足している力を実感することで必要感をもっていた。
- ③ 問題を解決するための方法を児童がそれぞれ考え、自分の方法で解決を図る姿が見られた。



研究協議での話題から

- ① 1年生の発達段階でも、単元の導入の際に資質・能力を共有することができること、そのために身に付いた姿をこちらがきちんと言葉にできることが大切であると学んだ。
- ② 日々の授業の中で、子どもたちが主体的に選択・判断する場面をつくり、日常的にしていけることが大切である。
- ③ 言語活動のモデルを示して、単元を通して活用することは有益だと感じた。

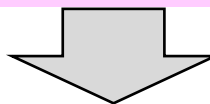
講義・演習から学んだこと

「今、求められる国語科授業」 県南教育事務所 菊地 光史 指導主事

- ① 国語科の授業づくりにおいて「資質・能力の明確化と共有」「子どもがやりたいと思う導入の工夫」「子ども自身が選択・判断(創造)する問題解決の方策」「評価の共有と活用」を発達段階や単元の特徴に合わせ取り込んでいくこと。
- ② 単元の目標となる資質・能力を身に付けた具体的な姿を想定し、それを子どもと共有することで、言語活動を通じた資質・能力の育成が図られること。
- ③ 個別最適な学びの充実には、子どもたちが自分にとって最善(適切)である問題解決の方策を選択・判断あるいは創造し、不断の見直しを行いながら学びを進めることがなされるように単元を構想していくことが大切であること。



研修者の声 (一部抜粋)



授業改善に向けて

- ① 子どもにどのような姿になってほしいのか教師側が明確にもつことが必要。
- ② 子どもたちが「学びたい」と思えるような仕掛けを考え続けることが現代の教員のやるべきことなのではないかと思う。
- ③ こちらが学び方を決めるのではなく、子どもたち自身が選択・判断していけるような授業を目指していきたい。
- ④ 教師の意識改革から始めることが大切である。声のかけ方を意識するだけで、受け身の授業から能動的な学びになるというのを伝えたい。
- ⑤ 子どもたちが豊かに言葉のやり取りを楽しむためには、国語に限らず、教師が意識して言葉を使っていかなければならないと感じた。
- ⑥ 日々の授業の中で「どうしたいか？」を問い続けることが大切。